

番号	1				
科 目	コミュニケーション論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	風間登志子（丸の内ビジネス専門学校理事長・副校長）				
授業の到達目標	対人理解力を向上させるとともに、社会科学的なコミュニケーション理論を学ぶことと、いわゆるコミュニケーションスキルをしっかりと身につけたい。				
授業の概要	社会人として求められるコミュニケーションの基礎知識から個々のスキル向上を目指して、楽しく丁寧に講義します。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 コミュニケーション能力とは	目的・手段・形態などについて			1	
2 基本的な話し方とマナー	あいさつ・自己紹介・言葉遣い			2	
3 1対1のコミュニケーションスキル	効果的な話し方・聞き方(アクティブリスニングとアクロレッジ)			2	
4 組織内のコミュニケーション	職場内のルールとマナーにそった対応			2	
5 円滑な人間関係を築く	アサーティブな話し方 上手な自己主張			2	
6 コミュニケーションスキル	コーチング			2	
7 日本語表現	ビジネス文書の基礎・メールの書き方の注意			2	
8 プレゼンテーション	プレゼンテーション			2	

番 号	2				
科 目	体 育	講義 実習 1 単位	単位 30 時間	2 学 年	全 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	荒井政昭、石川宏司、堀口潔、華野淳、高橋宏典、桜井敏宏				
授業の到達目標	球技を通して体の基本的な使い方、反射神経や持久力を涵養し、チームワークの重要性を学ぶ。				
授業の概要	体育デー、全学体育大会、4県体育大会を通じて身体能力の向上やチームワークの大切さを体験、修得する。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 球技	(1) 実技種目 ア ソフトボール イ 軟式野球 ウ バレーボール エ バドミントン オ 卓球 カ バスケットボール 体育デー 全学体育大会 四県農業大学校親善スポーツ大会				30

番号	3				
科 目	特別教養演習	講義 単位 演習 0.5 単位	時間 15 時間	1 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:後期		形態:演習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	井出慎一郎				
授業の到達目標	各種社会人に必要な教養を身につける。				
授業の概要	社会人に必要なスキルを身につける				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 面接・自己表現	(1) 面接の受け方 (2) 自己表現について				3
2 対人関係	(1) 上級生としての心構え (2) 社会生活に必要な気配り				3
3 地域貢献	(1) 地域資源を活用した地域活性化 (2) 地域内連携のしくみづくり				3
4 経済活動	(1) 先進農家の経営理念 (2) 農業経営の実際				3
5 社会人生活	(1) 労働条件・雇用契約・社会保障 (2) 社会人としての心構え				3

番号	4				
科 目	農産物マーケティング論	講義 2 単位 実習 1 単位	30 時間 30 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前期		形態:講義・実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	金子能呼(松本大学松商短期大学部)、古田睦美(長野大学環境ツーリズム学部)、若子由佳里				
授業の到達目標	(講義)TTPの後、農家の経営は厳しくなることが予測される一方で、その担い手の高齢化は進んでいる。農業は、魅力のない産業なのであろうか。否。6次産業の原点として農業を位置づけ、農業者の所得向上、地域振興に寄与する農業をマーケティング・経営の視点から検討し、魅力的な農業を生み出す原点となろう。 (実習)理論学習の内容を現場に触れて検証する。(優良事例などへの接触を含む)				
授業の概要	国際情勢や担い手の高齢化などの課題に対し、マーケティングの観点から何ができるか。知識と体験・視察で習得を目指す。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書	オスターワイルダー&ピニョール著(小山龍介訳)「ビジネスモデルジェネレーション」、翔泳社				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				

授業計画				
項 目	教 授 内 容	講義	実習	
1 一般の企業マーケティングの歴史と理論的特徴	(1) マーケティングの起こりとその基本的概念 (2) マーケティングの機能 製品計画、価格政策、ブランド政策、販売計画、販売チャンネル、広告計画、販促計画、商品管理・商品配送、マーケティングリサーチ等 (3) マーケティング戦略とビジネスモデル	7		
2 我国の農業の現状と問題解決に向けて	(1) 日本の農業ここが問題 (2) 6次産業が支える地域 そこでしかできない経験を売ること(観光と芸術そして人間回復) (3) ビジネスモデルジェネレーションを参考に、既存のビジネスを理解してみよう。 (4) 新しい農業ビジネスを考える。	7		
3、直売所のマーケティング	(1) 有機野菜や道の駅の事例から	4		
4、新しい農業ビジネスの提案	(1) 新しい農業ビジネスを考える。 (2) 新しい農業ビジネスを提案する。	4		
5、農業をみる新たな視点-コミュニティビジネスを考える	(1) 高付加価値の商品と農家の6次産業化 (2) 新しい農業ビジネスを考える。 (3) 消費者とのつながり方	8		
1、県内及び近県の流通形態、直売所(優良事例)を見学する。	(1) 首都圏に集中する様々な流通形態を見学 (2) 県内及び近県の注目される直売所を見学		18 6	
2、農産物販売の体験学習	(1) 農大生産物を創意工夫して販売する。		6	

番号	5				
科 目	農業簿記Ⅱ	講義 単位 演習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:後期		形態:演習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	井出慎一郎、宮崎早苗(元長野県農業大学校就農推進技幹)				
授業の到達目標	農業経営における簿記記帳の必要性について認識し、複式農業簿記の記帳原理について修得する。				
授業の概要	複式農業簿記の記帳手法を身に着ける。				
使 用 教 科 書	農業簿記検定教科書2級、農業簿記検定問題集2級				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 農業会計	(1) 農業生産の特性と会計				1
(1) 会計とは	(2) 企業経済と農家経済				
(2) 農業会計の特質	(3) 経営活動と会計				
2 複式農業簿記	(1) 資産・負債・資本と貸借対照表				2
(1) 簿記の基本	(2) 費用・収益と損益計算書				
(2) 勘定科目と元帳					1
(3) 取引					4
(4) 仕訳と転記	(1) 仕訳と仕訳帳記入				4
	(2) 元帳への転記				
(5) 資産の記帳	(1) 資産の分類				4
	(2) 流動資産の記帳				
	ア 当座資産の勘定科目とその記帳				
	イ 棚卸資産の勘定科目とその記帳				
	(3) 固定資産の記帳				
	ア 有形固定資産の勘定科目とその記帳				
	イ 無形固定資産の勘定科目とその記帳				
(6) 減価償却の記帳	(1) 減価償却の意味と方法				2
	(2) 減価償却の仕訳記入				
(7) 負債・資本の記帳	(1) 負債の記帳				2
	(2) 資本の勘定科目と記帳				
(8) 収益・費用の記帳	(1) 収益・費用の分類				4
	(2) 農業収益・農業費用の記帳				
	(3) 農業外収益・農業外費用の勘定科目と記帳				
	(4) 特別損益の勘定科目と記帳				
(9) 試算表	(1) 試算表の意味と作成				2
(10) 決算	(1) 決算の意味と手続き				4
	(2) 決算整理				
	(3) 引出金勘定残高の資本金勘定への振替				
	(4) 帳簿決算				

番号	6				
科 目	農村社会学	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	相川陽一(長野大学環境ツーリズム学部)、諸藤享子(NPO法人農と人とくらし研究センター理事)、石澤孝(元信州大学教育学部教授)				
授業の到達目標	現代社会における農村社会の位置付けを修得				
授業の概要	農村社会を理解し、現状と課題から将来像を模索する。				
使 用 教 科 書	まちをめぐる地域学				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 変貌する農村と農民生活	(1) 激動する農村 (2) 農村の構造的変化と農民像 (3) 世界の中の日本と農村社会			4	
2 農村社会の構造と変動	(1) 農村社会の特質 (2) 農村社会の構造と変容			3	
3 農村の集団と組織	(1) 社会集団の構造と機能 (2) 農村における集団構造 (3) 機能集団の形勢と展開			3	
4 農民の生活文化	(1) 農家生活の特質 (2) 家族構成と生活構成 (3) 農家生活と生活改善			3	
5 農民の社会的性格	(1) 農村の集団活動の性格 (2) 農村の指導組織			2	
6 地域社会と農村	(1) 農村と都市との関係 (2) 消費社会と農村の暮らし (3) 長野県における地域社会の変容			3	
7 食と農の社会学	(1) 構造主義 (2) 物質主義(機能主義)			2	
8 農業の工業化とその帰結	(1) 工業化する農と食 (2) フードレジーム(食料体制)			2	
9 マクドナルド化	(1) 食の工業化とマクドナルド化 (2) グローバル化とローカル化			2	
10 肥満をめぐる問題	(1) 肥満問題の背景とその対応 (2) フードデザート(食の砂漠)			2	
11 食のオルタナティブ	(1) フェアトレード、スローフード、CSA (2) 食と農をつなぐ倫理			2	
12 科学技術と市民参加	(1) 市民の声を科学技術にどう届けるか			2	

番号	7				
科 目	土壌肥料学	講義 2 単位 演習 1 単位	30 時間 30 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義・演習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	講義:山田和義(元全農長野生産購買部審議役)、吉田清志(JAあづみ営農経済事業部指導統括):肥料取扱者から現場で使用されている肥料の種類や形態、効果等について伝授。 演習:華野淳、若子由佳里				
授業の到達目標	土壌、肥料の基礎知識及び理化学性の分析術、調査方法を修得				
授業の概要	土壌肥料の基礎知識、分析技術を習得し、土壌医検定合格を目指す。				
使 用 教 科 書	まんがでわかる土と肥料・根っこから見た土の世界、土づくりと作物生産				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 土壌の物理性	(1) 土壌の歴史、世界の土壌と日本の土壌作物と土壌 (2) 土壌の物理性 (3) 土壌三相、土性、構造の性質			4	
2 土壌の化学性	(1)土壌の化学性 ・CEC、pHとEC、遊離酸化鉄			8	
3 土壌の生物性	(1)土壌の生物性 ・微生物、ミミズ、センチュウ、連作障害			6	
4 肥料と施肥法	(1)肥料の歴史 (2)各種肥料の流通と性質 (3)肥料成分の分析 (4)特別栽培農産物と有機農産物			4 4	
5 施肥法の基礎	(1)施肥法とその算出法(ph、CEC、ミネラルバランス) (2)土壌診断結果の見方			4	
5 視察研修	アグリエール長野ほか				8
6 土壌分析	(1) 土壌の三相分布構造 (2) カルシウム、カリウム、マグネシウムの分析 (3) 硝酸体窒素の分析 (4) リン酸とPhの分析				14
7 土壌医演習	土壌医検定試験の演習				8

番号	8				
科 目	植物防疫学Ⅱ	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	華野淳、高橋宏典、荒井政昭、桜井敏宏				
授業の到達目標	植物防疫の施策や応用技術のほか、雑草防除や鳥獣害対策等の習得				
授業の概要	植物防疫の施策を理解し農薬の使用や雑草防除、鳥獣害対策を習得する。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
品目別に実施 1 作物 (1) 植物防疫の施策	ア 植物防疫法と植物検疫について イ 県の植物防疫業務と発生予察事業について			4	
(2) 農薬使用の工夫	ア 殺菌剤の分類特性と効果的な使用について イ 殺虫剤の分類特性と効果的な使用について				
(3) 多様な害虫防除	ア 天敵利用による害虫防除について				
(4) 雑草の防除	イ 雑草の種類、生態と防除について				
(5) 鳥獣被害の防止	ア 有害鳥獣の種類、生態について イ 有害鳥獣の被害防止対策について				
2 野菜 作物に同じ				4	
3 花き 作物に同じ				4	
4 果樹 作物に同じ				3	

番号	9				
科 目	スマート農業論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	ヤンマーアグリジャパン株式会社関東甲信越支社アグリサポート部 株式会社関東甲信クボタ中部担い手ソリューション部 株式会社佐久協同 渡辺パイプ株式会社小諸サービスセンター 相馬商事株式会社				
授業の到達目標	農業において課題となる人手不足や経験知の伝承の解決策としてロボット技術やクラウドサービス等が開発され提供されつつある。多くの分野で導入されてきているAIやIOT、ICTを活用した先端技術を外部専門家より学ぶことにより、その技術を理解し使いこなすことができる人材を育成する。				
授業の概要	株式会社クボタが取り組む、先端技術の事業概要や将来の発展方向、今後の可能性のほか各試験研究機関や開発メーカーの取り組みの現状を各分野の専門家より学ぶとともに、実際に使いこなす手法を体験する。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 スマート農業研究の概要	(1) 農場水管理システムの概要と活用方法			4	
2 スマート農業研究の事例	(1) GPSを活用した農業機械の概要と操作			4	
3 農業機械への活用	(1) 新たな農業自動化技術の現地実証 (2) 現地視察研修			4	
4 農業生産管理システム	(1) 農業生産管理システムの実際と今後の展望			3	

番号	10				
科 目	農場実習Ⅱ	講義 単位 実習 2 単位	時間 60 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	由井素子、華野淳、高橋宏典、若子由佳里、桜井敏宏				
授業の到達目標	農作業を総合的に体験し農業を理解する。また、将来の農業経営に備える。				
授業の概要	農場における作業を総合的に体験し、基礎的技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 共通	(1) 圃場の環境整備				60
2 作物	(1) 水稻の播種・育苗・田植え、収穫・稲わら処理				
3 野菜	(1) ナガイモ・ゴボウの植付け、収穫 (2) 野菜苗植付け (3) 床土づくり				
4 花き	(1) 切り花の栽培管理・採花 (2) シクラメンの鉢替・葉組み				
5 果樹	(1) リンゴ・ナシの摘花、摘果、収穫、剪定 (2) ブドウの花穂整形、剪定				

番号	11				
科 目	専攻実習Ⅱ 作物専攻	講義 単位 実習 5 単位	時間 150 時間	2 学年	作物 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	華野淳				
授業の到達目標	イネ、麦、大豆、雑穀類について実際に栽培を体験し、その栽培方法及び栽培技術を学ぶ。				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 イネの栽培技術の習得	(1) イネの育苗について、中苗育苗法を種籾準備から、は種、育苗管理技術 (2) 本田における田植までの耕起,代かき、田植作業について大型機械による作業技術 (3) 除草,病虫害防除,追肥、溝切り、水管理の中間管理作業 (4) 適期収穫技術及びコンバイン等による収穫作業および乾燥調製作業 (5) 食味計利用による調査方法等				150
2 ムギの栽培技術の習得	(1) 耕起・播種作業の実際 (2) 除草剤散布の実際 (3) 施肥管理 (4) 収穫乾燥調整作業の実際				
3 豆類の栽培技術の習得	(1) 耕起・播種作業の実際 (2) 除草剤散布の実際 (3) 施肥管理 (4) 収穫乾燥調整作業の実際				
4 雑穀類の栽培技術の習得	(1) そばの栽培技術の習得 ・耕起・施肥・は種の実際 ・収穫乾燥調製作業の実際				
5 GAPリスク管理	(1) 現場のリスク把握 (2) 作業手順書確認、記録簿整理 (3) 内部模擬審査の実施				

番号	12				
科 目	専攻実習Ⅱ 野菜専攻	講義 単位 実習 5 単位	時間 150 時間	2 学年	野菜 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	高橋宏典				
授業の到達目標	主要野菜の生産、経営技術を習得				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書	野菜栽培指標(長野県)				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 葉菜類の生理 生態と栽培概要	(1) レタス、キャベツ、はくさい、ねぎ、野沢菜、 ブロッコリー、カリフラワー、アスパラガス等の栽培 (2) 難防除病害虫対策				150
2 果菜類の生理 生態と栽培概要	(1) トマト、ピーマン、なす、きゅうり、すいか、 かぼちゃ、いんげん、そらまめ、えんどう えだまめ、スイートコーン等の栽培 (2) 難防除病害虫対策				
3 根菜類の生理 生態と栽培概要	(1) ながいも、さつまいも、じゃがいも、ごぼう、 さといも、だいこん、にんじん、たまねぎ等の栽培				
4 施設野菜 の栽培管理	(1) いちご、トマト、きゅうり等果菜類の栽培 (2) レタス、ほうれんそう、コマツナ等葉菜類の栽培 (3) 施設内特異発生病害虫対策				
5 土壌管理	(1) 露地ほ場の土づくり (2) 施設ほ場の土づくり (3) 施肥技術 (4) 灌水技術 (5) 除草技術				
6 出荷と販売技術	(1) 収穫調整技術 (2) 出荷技術 (3) 販売の実際				
7 GAPリスク管理	(1) 現場のリスク把握 (2) 作業手順書確認、記録簿整理 (3) 内部模擬審査の実施				

番号	13				
科 目	専攻実習Ⅱ 花き専攻	講義 単位 実習 5 単位	時間 150 時間	2 学年	花き (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	若子由佳里				
授業の到達目標	主要切り花における栽培技術、経営の技術を修得する。				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書	長野県花き栽培指標				
主 な 参 考 図 書	花栽培の最新情報1(切り花、鉢花)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 主要花きの生産技術	(1) 増殖、育苗技術 温度湿度管理、水分管理 (2) 土づくり、培土づくり (3) 施肥、灌水技術 (4) 肥培管理 (5) 病害虫防除 (6) 切り花調整、鮮度保持、出荷荷造り (7) 機械利用、施設管理の基礎				150
2 主要花きの品種作型	(1) 品種特性の把握 (2) 作期の拡大 (3) 開花調節技術				
3 経営の実際	(1) 省力化技術 (2) 品目の収益性と生産コスト (3) 市場、需要動向				
4 GAPリスク管理	(1) 現場のリスク把握 (2) 作業手順書確認、記録簿整理 (3) 内部模擬審査の実施				

番号	14				
科 目	専攻実習Ⅱ 果樹専攻	講義 単位 実習 5 単位	時間 150 時間	2 学年	果樹 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	桜井敏宏				
授業の到達目標	主要果樹の生産、生態と栽培技術を習得する。				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書	果樹指導指針				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 りんご	(1)接ぎ木、(2)着果管理、(3)夏季管理 (4)着色管理、(5)適期収穫・選果・出荷 (6)病虫害診断と防除、(7)土壌管理と施肥 (8)整枝・せん定、(9)品種特性				150
2 ぶどう	(1)新梢管理、(2)結実確保、(3)結果調節 (4)無核化技術、(5)適期収穫・選果・出荷 (6)病虫害診断と防除、(7)土壌管理と施肥 (8)整枝・せん定				
3 なし	(1)着果管理、(2)袋掛け、(3)新梢管理 (4)適期収穫・選果・出荷、(5)病虫害診断と防除 (6)土壌管理と施肥、(7)整枝・せん定 (8)品種特性				
4 もも	(1)着果管理、(2)袋掛け、(3)夏季管理 (4)着色管理、(5)適期収穫・選果・出荷 (6)病虫害診断と防除、(7)土壌管理と施肥 (8)整枝・せん定				
5 その他果樹 (うめ、プルーン、あんず)	(1)着果管理 (2)適期収穫・選果・出荷				
6 共通	(1)生態調査の方法 (2)機械の使用方法和農作業安全				
7 GAPリスク管理	(1)現場のリスク把握 (2)作業手順書確認、記録簿整理 (3)内部模擬審査の実施				

番号	15				
科 目	プロジェクトⅡ	講義 2 単位 演習 1 単位 実習 6 単位	30 時間 30 時間 180 時間	2 学年	全 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義・演習・実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	華野淳、高橋宏典、若子由佳里、桜井敏宏				
授業の到達目標	農作物等の栽培を通じて、農業経営管理技術を体験し、経営管理能力を修得する。				
授業の概要	プロジェクト研究を通して経営管理技術を実践し管理能力を身に着ける。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書	統計的品質管理入門、青年農業者育成の研究 2005. 3				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習 (演習)
1 課題解決の進め方	(1) 課題解決のために使用する施設、設備等を事前に確認する。 (2) 計画の実施に必要な参考書、参考資料、関連する参考文献等の資料を収集する。 (3) 資料及び各種情報を基にプロジェクト学習の仮説を検証する。 (4) プロジェクト学習の目標が達成できるよう実践する。			30	
2 調査、研究の実施	(1) 作物の栽培技術及び経営管理技術を習得する。 (2) 観察および測定調査を実施し、それを記録する。				150
3 調査、研究の取りまとめ	(1) 観察および測定調査の記録を取りまとめる。 (2) 取りまとめたデータに基づき、研究内容の分析及び検討を行う。				30
4 プロジェクト学習成果の発表と取りまとめ	(1)プロジェクトの途中経過を取りまとめる。 (2)中間での取り組みに対する内容等を発表する。 (3)分析等に基づき調査成績を作成する。 (4)調査成績の内容及び考察・意見等を発表する。 (5)プロジェクト研究実績集を作成する。				30 (演習)

番号	16				
科 目	ゼミナールⅡ 作物	講義 2 単位 演習 2 単位	30 時間 60 時間	2 学年	作物 (必須) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義・演習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	先進農業者、華野淳				
授業の到達目標	県内の土地利用型作物経営の先進農業者(法人)の栽培技術や経営手法について学ぶ。				
授業の概要	県内の先進農業者が取り組む技術や経営を直接学び、今後の農業経営に役立てる。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 水稻の省力栽培技術の習得	(1) 水稻直播栽培技術の基本について (2) 大型機械の効率的利用 (3) 省力栽培技術			6	20
2 水稻の有機栽培への取り組み技術について習得	(1) 環境に配慮した農業技術の取り組み (2) 農薬に頼らない防除方法 (3) 有機肥料の作り方			6	10
3 畑作＋水稻の大規模経営の取り組み	(1) 畑作物(ソバ・麦)の栽培技術について (2) 畑作物(ソバ・麦等)の加工技術について			6	10
4 集落営農・水田転作への取り組み	(1) 転作田での土地利用型作物の栽培技術 (2) 地域営農のなかで経営展開			6	10
5 大規模土地利用型経営の経営管理手法の習得	(1) 販売戦略等経営展開の考え方、取り組み (2) 経営管理手法(労務管理・財務管理)について			6	10

番号	17				
科 目	ゼミナールⅡ 作物以外	講義 2 単位 演習 2 単位	30 時間 60 時間	2 学年	野菜、花き、 果樹 専攻 (必須)
講義時期:前・後期		形態:講義・演習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	先進農業者、高橋宏典、若子由佳里、桜井敏宏				
授業の到達目標	野菜、花き、果樹経営において、先進的な経営に取り組んでいる経営者より、経営理念、経営技術等を通じた経営戦略について修得する。				
授業の概要	県内の先進農業者が取り組む技術や経営を直接学び、今後の農業経営に役立てる。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
野菜、花き、果樹経営における					
1 経営理念	(1) 経営体における生産から販売までの 経営理念 (2) 品目、品種、作型導入上の経営戦略 (3) 栽培自動化、省力化、規模拡大、作期拡大 等の取り組み			6	
2 生産技術	(1) 栽培上の基礎技術、応用技術 省力化技術 (2) 土づくり、肥培管理、減農薬、 減化学肥料栽培、結実確保等 (3) 品質向上対策として取り組んでいる 特徴的技術 (4) 生産施設、装置、資材の導入状況			10	30
3 出荷調整技術	(1) 収穫調整、選別、切り前、鮮度保持技術 (2) 販売方法別選別、仕分け、 出荷システムの事例			7	25
4 販売戦略	消費者ニーズへの対応、販売先、販売方法に おける工夫、出荷システムの工夫			7	5

番号	18				
科 目	作物学各論 I	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	作物(必須) 野菜、花き 専攻 果樹(選択)
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	華野淳				
授業の到達目標	水稻の生理・生態及び栽培技術の習得				
授業の概要	水稻の生理・生態から具体的な栽培技術の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	主要穀類指導指針 長野県				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 水稻の品種	(1) 品種特性(育種含む)と用途について			2	
2 水稻の栽培技術	(1) 種子予措と育苗技術について (2) 土づくりと施肥について (3) 代かきと移植技術について (4) 水田雑草の防除について (5) 生育期～出穂期の管理について (6) 施肥と移植技術について (7) 病虫害防除について (8) 収穫技術について (9) 乾燥調製技術について (10) 米の食味品質について			2 2 2 2 2 2 2 2 2	
3 特色ある栽培方法と稲作経営	(1) 直播など低コスト水稻栽培について (2) 環境にやさしい水稻栽培について (3) 稲作経営について			2 2 2	
4 総括	(1) 栽培及び経営技術のまとめ			4	

番号	19				
科 目	作物学各論Ⅱ	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	作物(必須) 野菜、花き 専攻 果樹(選択)
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	加科秀喜				
授業の到達目標	稲を除く食用作物に関する特性及び栽培上の知識、環境にやさしい技術の習得				
授業の概要	麦、大豆、そば、雑穀類のの生理・生態から具体的な栽培技術の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	主要穀類指導指針 長野県				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 ムギ類 (コムギ、オオムギ)	(1) 由来、栽培の歴史、生産状況 (2) 形態・生理生態 (3) 品種(育種を含む) (4) 栽培 (5) 経営への導入事例			10	
2 豆類 (主として大豆・小豆)	(1) 由来、栽培の歴史、生産状況 (2) 形態・生理生態 (3) 品種(育種を含む) (4) 栽培 (5) 経営への導入事例			8	
3 トウモロコシ	(1) 由来、栽培の歴史、生産状況 (2) 形態・生理生態			4	
4 その他雑穀類 (主としてソバ)	(1) 由来、栽培の歴史、生産状況 (2) 形態・生理生態 (3) 品種(育種を含む) (4) 栽培			8	

番号	20				
科 目	野菜園芸学各論Ⅰ	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	野菜(必須) 作物、花き、 専攻 果樹(選択)
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	高橋宏典				
授業の到達目標	主要野菜の生理生態、栽培技術及び環境に配慮した生産方法を習得させる。				
授業の概要	多くの野菜類の生理・生態から具体的な栽培技術の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	野菜栽培指標(長野県)				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1. 葉茎菜類の生理・生態と栽培 (品種の選定(育種を含む))	レタス類			2	
	ハクサイ			2	
	キャベツ			2	
	ブロッコリー			2	
	カリフラワー			1	
	アスパラガス			2	
	ネギ			1	
	タマネギ			2	
	ニンニク			1	
	チンゲンサイ			1	
	セルリー			2	
	パセリー			1	
	ノザワナ			1	
	ハウレンソウ			1	
2. 根菜類の生理生態と栽培技術 (品種の選定(育種を含む))	ニンジン			1	
	ダイコン			1	
	ジャガイモ			2	
	サトイモ			1	
	ナガイモ			2	
	サツマイモ			1	
	ゴボウ			1	

番号	21				
科 目	野菜園芸学各論Ⅱ	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	野菜(必須) 作物、花き、 専攻 果樹(選択)
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	石川宏司				
授業の到達目標	主要野菜の生理生態、栽培技術及び環境に配慮した生産方法を習得させる。				
授業の概要	多くの野菜類の生理・生態から具体的な栽培技術の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	野菜栽培指標(長野県)				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1. 果菜類の生理生態と栽培技術 (品種の選定(育種を含む))	トマト、ミニトマト			2	
	キュウリ			2	
	ナス			2	
	ピーマン、パプリカ			2	
	イチゴ			2	
	スイートコーン			2	
	スイカ			1	
	メロン			1	
	カボチャ			2	
	ズッキーニ			1	
	オクラ			1	
	その他果菜類			2	
	2. まめ類の生理生態と栽培技術 (品種の選定(育種を含む))	サヤエンドウ			
サヤインゲン			1		
エダマメ			1		
ラッカセイ			1		
その他まめ類			2		
3. 被覆資材	(1) 被覆資材の機能と特性 (2) マルチ・べたがけ資材と利用 (3) プラスチックのリサイクル			2	
4. ハウスの構造	(1) パイプハウスの構造と特性 (2) ハウス栽培用資材 (3) 病害虫の発生特性			2	

番号	22				
科 目	花き園芸学各論Ⅰ	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	花き(必須) 作物、野菜、 果樹(選択) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	荒井政昭				
授業の到達目標	主要切り花における栽培技術、経営の技術を修得する。				
授業の概要	多くの花き類の生理・生態から具体的な栽培技術、経営の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	長野県花き栽培指標 長野県花き基本計画				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 生理生態	切り花栽培の基礎知識			2	
2 作型と品種及び育種手法	主要品目				
3 育苗、肥培管理	(1)キク			2	
4 開花調節	(2)カーネーション			2	
5 切り前と出荷	(3)トルコギキョウ			2	
6 病虫害防除	(4)スターチス類			2	
7 施設と資材	(5)ストック			2	
8 流通、市場性、 収益性、労働性	(6)リンドウ			2	
	(7)ユリ			2	
	(8)アルストロメリア			2	
	(9)ラナンキュラス			2	
	(10)その他切花			2	
	(11)育苗、流通			8	

番号	23				
科 目	花き園芸学各論Ⅱ	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	花き(必須) 作物、野菜、 果樹(選択) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	荒井政昭				
授業の到達目標	主要鉢花、花壇苗、切り枝、切り葉における栽培技術、経営の技術を修得する。				
授業の概要	多くの花き類の生理・生態から具体的な栽培技術、経営の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	長野県花き栽培指標 長野県花き基本計画				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 原産地	鉢花、花壇苗、切り枝、切り葉栽培の基礎知識			2	
2 作型と品種及び育種手法	主要品目				
3 生理生態	(1) シクラメン			2	
4 育苗、肥培管理	(2) シンビジウム等洋ラン類			2	
	(3) ポットマム			2	
	(4) ポイセチア			2	
	(5) プリムラ類			2	
	(6) パンジー類			2	
	(7) 切り枝、切り葉			2	
	(8) その他鉢花、花壇苗			2	
	(9) 施設管理			4	
	(10) 育苗、流通等			8	
8 施設と資材					
9 流通、市場性、 収益性、労働性					

番号	24				
科 目	果樹園芸学各論 I	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	果樹(必須) 作物、野菜、 花き(選択) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	町田希実				
授業の到達目標	主な果樹(仁果類)の栽培技術、経営技術を習得する。				
授業の概要	果樹類の生理・生態から具体的な栽培技術、経営の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	「長野県果樹指導指針」長野県、JA全農長野				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 りんご栽培	(1)栽培のねらい、(2)品種の育成・選定、開園・栽植 (3)台木・苗木・高接ぎ更新、(4)結実確保 (5)摘花・摘果、(6)袋掛け・無袋栽培 (7)夏季管理、(8)落果防止、(9)収穫前管理 (10)収穫・貯蔵、(11)整枝せん定 (12)土壌管理と施肥・生理障害対策 (13)わい化栽培 新わい化栽培 (14)病虫害防除・除草剤の利用方法 (15)野ネズミ・鳥害対策、(16)気象災害対策 (17)環境にやさしい栽培技術など			14	
2 もも栽培	(1)栽培のねらい、(2)品種の育成・選定、開園・栽植 (3)台木・苗木、(4)結実確保、(5)摘蕾・摘果 (6)袋掛け・無袋栽培、(7)夏季管理 (8)収穫前管理、(9)収穫・鮮度保持 (10)整枝せん定、(11)土壌管理と施肥 (12)生理生涯と対策、(13)病虫害防除など			10	
3 その他果樹 (うめ、プルーン、 あんず、おうとう)	(1)栽培のねらい、(2)品種の育成・選定、開園・栽植 (3)台木・苗木、(4)結実確保、(5)夏季管理 (6)収穫・鮮度保持、(7)整枝せん定 (8)土壌管理と施肥、(9)生理障害と対策 (10)病虫害防除			6	

番号	25				
科 目	果樹園芸学各論Ⅱ	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	2 学年	果樹(必須) 作物、野菜、 花き(選択) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	桜井敏宏				
授業の到達目標	主要な果樹の生理生態と栽培技術を習得する。				
授業の概要	果樹類の生理・生態から具体的な栽培技術、経営の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	「長野県果樹指導指針」長野県、JA全農長野				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 ぶどう栽培	(1)栽培のねらい、(2)品種の育成・選定、開園・栽植 (3)台木・苗木、(4)栽培のポイント (5)施設栽培、(6)収穫・貯蔵 (7)整枝せん定、(8)土壌管理と施肥 (9)生理障害と対策、(10)病虫害防除			14	
2 なし栽培	(1)栽培のねらい、(2)品種の育成・選定、開園・栽植 (3)台木・苗木・高接ぎ更新、(4)結実確保、 (5)摘蕾・摘果、(6)変形果の発生原因と対策 (7)袋掛け・二十世紀の無袋栽培 (8)果実の肥大促進と熟期促進 (9)新梢管理と花芽着生、(10)収穫・貯蔵 (11)整枝せん定、(12)土壌管理と施肥 (13)生理障害と対策、(14)病虫害防除防蛾対策 (15)環境にやさしい栽培技術、(16)その他			12	
3 西洋なし栽培	(1)栽培のねらい、(2)品種の育成・選定、開園・栽植 (3)台木・苗木、(4)結実確保、(5)摘果・袋掛け (6)収穫・追熟、(7)整枝せん定 (8)土壌管理と施肥、(9)生理障害と対策			2	
4 その他 (かき、くり、キウイ)	(1)栽培のねらい (2)摘果・収穫・整枝せん定など			2	

番号	26				
科 目	環境保全論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	雲崎凌(県農業技術課)				
授業の到達目標	農業と環境・廃棄物問題についての基礎知識を習得し、農業と環境保全とのかかわりについて正しく理解する。				
授業の概要	環境、廃棄物問題の基礎知識を習得し、環境と農業との関係を事例とともに理解する。				
使 用 教 科 書	授業中にプリントを配布するとともに参考図書については授業で示す。				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生に再試験を行うことができる。 (授業態度20%、講義毎の小テスト30%、定期テスト50%で評価する)				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 イン트로ダクション	(1) オリエンテーション (2) 環境保全とは (3) 地球温暖化がもたらす農業への影響と対策			3	
2 農業生産活動に伴う環境負荷	(1) 肥料 (2) 農薬 (3) 農業機械 (4) 家畜ふん尿 (5) その他(マイクロプラスチック、煙、騒音、臭気、振動、有害物質の飛散・流出、生態系の保全、特定外来生物など) (6) 地域の有効資源の活用(バイオマス等)			4	
3 国や県が実施する施策や規制(法令)および国際情勢について	(1) 国の規制・法令 (2) 国際情勢			4	
4 環境にやさしい農業	(1) 環境にやさしい農業の促進に関する施策 ア みどりの食料システム戦略 イ 長野県みどりの食料システム戦略推進戦略 (2) 環境にやさしい農業関連の認証・認定制度等 (3) 環境にやさしい農業技術			4	

番号	27				
科 目	農畜産加工学	講義 1 単位 実習 0.5 単位	15 時間 15 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:前・後期		形態:講義・実習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	講義:小原忠彦(元食品工業試験場生物工学部)、 瀧本孝宏(長野牛乳(株)):牛乳の製造販売業者から加工製品の製造及び品質管理技術等を伝授。 実習:竹内和恵(ラ・フルティエールタケウチ果実加工兼カフェ店主)、マルコメ株式会社、若子由佳里				
授業の到達目標	農産物の付加価値を高めるための加工技術について習得する				
授業の概要	農畜産加工の知識と技術を現地実習を含めながら習得する				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 総論	(1) 農産加工の意義 (2) 農産加工技術の基礎			2	15
2 農産加工技術	(1) 品目別農産加工 穀類の加工利用 野菜の加工利用 果物の加工利用 乳、肉類の加工利用 微生物利用と発酵食品			10	
3 農産加工品の流通対策	(1) 加工製品の保鮮貯蔵技術 (2) 加工食品の法的規制			3	

番号	28				
科 目	農業経営演習Ⅱ	講義 単位 演習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:前期		形態:演習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	宮本周司				
授業の到達目標	卒業直後に就農する学生に対して必要と思われる内容の講義・実習等を行い、新規就農者としての資質向上を図る。				
授業の概要	就農を想定した具体的必要事項を学び、新規就農者の資質向上を目指す				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 就農計画作成	(1) 目標とする農業のイメージについて (2) JA集荷と個人出荷のちがい (3) 農業法人について (4) 認定農業者制度など関係する制度、 制度資金について (5) 家族経営協定について (6) 先進農家の経営方針等の視察				30

番号	29				
科 目	スマート農業論	講義 単位 演習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:前期		形態:演習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	ドローン操縦資格免許取得講習機関				
授業の到達目標	農業において課題となる人手不足や経験知の伝承の解決策としてロボット技術やクラウドサービス等が開発され提供されつつある。多くの分野で導入されてきているAIやIOT、ICTを活用した先端技術を外部専門家より学ぶことにより、その技術を理解し使いこなすことができる人材を育成する。				
授業の概要	ドローンの操縦に必要な知識・法規・技能を講習会形式で学ぶ。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
ドローン操縦技術の習得	ドローン操縦資格免許の習得				30

番号	30				
科 目	農業機械学Ⅲ (クレーン玉掛け)	講義 単位 実習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:前期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	佐野増樹、国認定教習機関				
授業の到達目標	農業生産現場で生かせる資格の取得、農業機械に関する専門的知識の習得				
授業の概要	専門的知識を学び、資格取得を目指す				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 クレーン	1 クレーンの学科講習 (1) 小型移動式クレーンの知識 (2) 原動機及び電気に関する知識 (3) 力学の知識 (4) 関係法令 (5) 学科試験 2 小型移動式クレーンの実技講習 (1) 基本操作、重量確認、荷のつりあげ・卸し (2) 実技検定				30
2 玉掛け	1 玉掛けの学科講習 (1) クレーン玉掛けの方法 (2) クレーンに関する知識 (3) 関係法令 (4) 学科試験 2 玉掛けの実技講習 (1) クレーン等の玉掛け (2) 実技検定				

番号	31				
科 目	農業機械学Ⅳ (けん引)	講義 単位 実習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:前期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	華野淳、研修部				
授業の到達目標	農業機械の効率的利用を図るため、基本的なトラクターの取扱と保守点検整備に習熟するとともに、より高度な専門性の高い技術、技能を修得する				
授業の概要	専門的知識を学び、資格取得を目指す				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 トラクター運転及びけん引技術の習得	(1) トラクター等の取扱 (2) 保守点検 (3) 運転技術(けん引) (4) 資格免許取得(けん引 農耕車限定)				30

番号	32				
科 目	農業機械学Ⅴ (溶接)	講義 単位 実習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	石川宏司、長野県溶接協会				
授業の到達目標	農業生産現場で生かせる資格の取得、農業機械に関する専門的知識の習得				
授業の概要	専門的知識を学び、資格取得を目指す				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 ガス溶接	1 ガス溶接学科講習 (1) 可燃性ガスと酸素の知識 (2) 関係法令 (3) ガス溶接の設備と構造 (4) 学科試験 2 ガス溶接の実技講習 (1) 実技指導諸注意 (2) 実技				30
2 アーク溶接	1 アーク溶接学科講習 (1) アーク溶接の知識 (2) アーク溶接装置の知識 (3) アーク溶接作業の方法に関する知識 (4) 関係法令 (5) 学科試験 2 アーク溶接の実技講習 (1) 実技講習 (2) 実技				

番号	33				
科 目	農業機械学Ⅵ (チェーンソー 高所作業車)	講義 単位 実習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	桜井敏宏、国認定教習機関				
授業の到達目標	農業生産現場で生かせる資格の取得、農業機械に関する専門的知識の習得				
授業の概要	専門的知識を学び、資格取得を目指す				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 チェーンソー	1 伐木業務学科講習 (1) 関係法令 (2) 伐木の知識 (3) チェーンソーの知識 (4) 振動障害の知識 (5) 資格免許取得学科試験 2 伐木業務実技講習 (1) チェーンソーの整備 (2) チェーンソーの操作 (3) 大径木、偏心木の伐木 (4) 実技試験				30
2 高所作業車	1 高所作業車学科講習 (1) 関係法令 (2) 作業装置 (3) 原動機 (4) 力学一般知識 (5) 資格免許取得学科試験 2 高所作業車実技講習 (1) 実技装置 (2) 実技試験				

番号	34				
科 目	農業機械学Ⅶ (フォークリフト 車両系建設機械)	講義 単位 実習 1 単位	時間 30 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:前期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	佐野増樹、国認定教習機関				
授業の到達目標	農業生産現場で生かせる資格の取得、農業機械に関する専門的知識の習得				
授業の概要	専門的知識を学び、資格取得を目指す				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 フォークリフト	(1) フォークリフトの操作 (2) 資格取得				30
2 車両系建設機械	(1) 車両系建設機械の操作 (2) 資格取得				

番号	35				
科 目	インターンシップ	講義 単位 実習 1.5 単位	時間 45 時間	2 学年	全 (選択) 専攻
講義時期:前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	県内先進農業者(法人):生産だけではなく、労務管理や流通等について、実習を通して、直接伝授。堀口潔				
授業の到達目標	農畜産業の担い手としての自覚と幅広い農業観を涵養するため、農業法人等での実体験を通じて、将来の進路・適性を考え学び取る。				
授業の概要	体験実習による将来の進路、職業適性を学び検討する機会				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 農畜産業の実体験 生産、加工、流通、販売、指導等	(1)法人等の性格				2
	(2)法人等の機能及び特徴				2
	(3)業務実習				39
	(4)実習反省まとめ				2